

特定非営利活動法人宇都宮まちづくり推進機構 中期経営計画評価表（平成28年度実績）

平成29年4月1日現在

I 組織の概要

1. 基礎情報

所在地	宇都宮市中央3丁目1番4号 栃木県産業会館2階		設立年月	平成11年10月（任意団体設立） 平成21年9月（NPO法人化）	
市所管課	総合政策部 地域政策室		代表者	理事長 須賀 英之	
ホームページアドレス	http://www.machidukuri.org/				
基本財産（資本金）	—	主な出資者	—	出資額	—
市出資額	—	—	—	—	—
市出資割合	—	—	—	—	—
設立目的等	公共団体と民間団体が連携して宇都宮のまちづくりに取り組むための中核的な組織として、魅力ある中心市街地の形成を図ることで、宇都宮の将来の発展に寄与することを目的とする。				
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある中心市街地の形成に向けた事業 中心市街地としての都市拠点の機能向上に向けた事業 中心市街地の賑わい創出に向けた事業 中心市街地の整備改善に関する事業 				
公益目的事業比率（公益法人のみ）	—				

2. 組織・人員情報

役職員数	役員				職員					
	常勤	理事	1	うち市OB	正規職員等			嘱託・臨時職員等		
					再雇用職員（フルタイム）	0	0	嘱託職員	0	0
非常勤	理事	16	1	派遣等職員	市	1	0	臨時職員等（アルバイト等含む）	1	0
	市以外	1	0	市OB職員	2	1				
計		19	2	計	4	1	計	1	0	
役員の平均年齢（歳）	63.0	役員の平均年収（千円）	—	情報公開制度の有無			0			
職員の平均年齢（歳）	58.0	職員の平均年収（千円）	5,064	個人情報保護体制の有無			0			

3. 財務状況

単位（千円）

【貸借対照表】	27年度決算	28年度決算	備考
資産	16,005	15,809	
負債	2,601	1,542	
（うち損失補償等額）	0	0	
純資産	13,404	14,267	
（うち利益剰余金）	5,314	4,716	

※一般財団等は、純資産を正味財産合計、利益剰余金を一般正味財産として読み替えています。

【損益計算書】	27年度決算	28年度決算	備考
総収入	27,218	27,897	
（うち市補助金等）	17,593	17,674	
（うち市委託料等）	0	0	
経常損益	1,468	1,126	
当期損益	1,275	△599	

※一般財団等は、損益計算書を正味財産増減計算書、経常損益を当期経常増減額、当期損益を当期一般正味財産増減額として読み替えています。

【宇都宮まちづくり推進機構】

Ⅱ 各項目の取組状況

1. 事業の充実・重点化

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度			
1	中心市街地活性化事業の充実	平成31年度中 2事業	1事業	1事業	1事業			
2	事業協賛金の拡充	平成31年度末 7,000千円	5,000千円	4,640千円	4,006千円			

2. 地域における公益的活動の推進

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度			
3	地域連携事業の拡充	平成31年度中 4事業	2事業	2事業	3事業			

3. 健全経営の維持と経営の更なる改善

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度			
4 (共)	市からの補助金・負担金の適正化	職員の適正配置等を踏まえた補助金の適正化	17,549千円	17,593千円	17,674千円			
5	新規会員の獲得	平成31年度末 150会員	128会員	141会員	139会員			

4. 組織・人員体制の強化

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度			
6 (共)	常勤役職員数の適正化	継続的な見直し	市OB職員2名	市OB職員2名	市OB職員2名			

5. その他

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度			
7	情報提供の充実	新たな媒体による情報の提供	機構HP	実施	実施			

Ⅲ 総合評価

団体による 自己評価	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中心市街地活性化事業の充実については、オープンカフェの本格実施に向けて、社会実験を実施した。・ 事業協賛金の拡充については、協賛対象事業の減少や対象事業の経常化により、減額となっているが、大谷石蔵マップ増刷への協賛金や単年度事業として実施した交通まちづくりシンポジウムへの協賛金の導入など、事業を会員に広く周知する手法の一つとして導入するなどして、協賛件数を増加させる取組を行った。・ 地域連携事業の拡充については、かまがわ川床桜まつり事業やイルミネーション事業において、他地域団体と連携して事業を実施したほか、新たにオリオン通りにおけるオープンカフェ事業の本格実施に向け、地元商店街と実施した社会実験において、地元連合自治会や高等学校とも連携し、歩行者安全確保のための「押しチャリ」の取組を行った。・ 市からの補助金・負担金の適正化については、協賛金を活用した各種事業を実施するなどして、補助金の効果的な活用に取り組んだ。・ 新規会員の獲得については、会員の確保・増強に向けた強化月間を設定し、会員数及び会費収入の増加を図った。・ 常勤役員数の適正化に関しては、適切な組織体制を確立するため、既存事業の見直しや更なる業務の効率化などを進めた。・ 情報提供の充実については、機構ホームページのほか、フェイスブック等の新たな情報提供媒体を活用し、事業活動の周知や中心市街地に来訪するための魅力の発信に取り組んだ。 <p>いずれの取組についても概ね順調に進行しているが、自立的・安定的な経営基盤を確保するため、今後とも自主財源の更なる確保を図るとともに、事業体制の効率化を推進しながら、中心市街地の活性化に向けた効果的な事業展開を行っていく。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自立的・安定的な経営基盤の確立・ 会員数の確保及び協賛事業の拡充・ 新たな収益事業の発掘・ 魅力ある中心市街地の形成に向けた事業の充実・強化
所管課による 評価	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中心市街地活性化事業の充実については、旧公益質屋活用事業に加え、昨年度の社会実験を経て、平成29年度からオープンカフェがオリオン通りで本格実施されており、今後は収益の確保に繋がるような取組への展開を検討するなど、事業の充実に取り組む必要がある。・ また、イベントやパンフレット作製などにおいて、積極的に協賛金を募り、財源の確保に努めているが、引き続き、様々な事業機会を捉えて協賛金を拡充するなど、自主財源を確保しながら事業を実施していく必要がある。・ 地域連携事業の拡充については、釜川などのイベント事業で他地域団体との連携事業を実施したほか、オープンカフェ事業の実施においても、商店街等と連携して取組を進めている。引き続き、中心市街地のまちづくりのコーディネーターとして、様々な団体等と連携することで、まちづくりの担い手の育成にもつながるような取組を推進していくことが期待される。・ 市からの補助金・負担金の適正化については、事業の実施にあたっての協賛金の活用、新規会員の増強など、効率的な事業運営に向けて取組を行っている。新規会員の獲得は、会費収入はもとより、各事業の活動主体の増強にもつながることから、組織の体制基盤強化の面からも、積極的な勧誘を行っていく必要がある。・ 今後も、自主財源の確保に努めつつ、自立的・安定的な経営基盤の確立に向け、経営改善を進めていくことが求められる。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自立的・安定的な経営基盤の確立・ 経営基盤を確立するための新たな収益事業の発掘・ 事業の円滑な推進に向けた会員の確保